

健康♪外来ニュース

歯周病

No. 62 令和6年6月15日

食道・胃がんと口腔内細菌

胃がんの主要な原因であるピロリ菌(H.pylori)に対して除菌療法(酸分泌抑制薬1種と抗菌薬2種を1週間服用)を行っても、約5%は除菌に失敗します。その原因の多くは使用薬剤に対する耐性菌の存在ですが、ピロリ菌が虫歯の中で薬剤から逃れて生き残るためとする報告があります。

ピロリ菌以外にも、口腔内細菌のホルフィロモナス・ジンジバリスが食道がん、ストレプトコッカス・アンギノサス(扁桃連鎖球菌)が胃がんを発症させると言われています。

一方、酸分泌抑制薬(PPI等)の過剰使用が、胃酸のバリア機能を弱める、細菌叢を変化させるなどして、胃がん発症リスクを高める可能性が指摘されています。

歯周病と関連する全身の病気

歯周病は多種類の細菌(いわゆる歯周病菌)による複合感染症で、歯を失うだけでなく、全身疾患を引き起こしたり悪化させる原因として注目されています。歯周病に侵された歯肉組織から、歯周病菌ならびに産生された炎症性サイトカイン(TNF- α など:細菌やウイルスの感染から体を守るために炎症細胞が作る物質)が血液を介して全身に広がるためと考えられます。

脳内にも歯周病菌が見つかり、炎症性サイトカインはアルツハイマー型認知症の原因物質アミロイド β を作ります。血管内に入った歯周病菌や炎症性サイトカインは、動脈硬化を引き起こし血栓を生じて脳梗塞、心筋梗塞、閉塞性血栓性血管炎(バージャー病)の原因になります。歯科の観血的処置では、歯周病菌が心臓の弁に付着すると感染性心内膜炎を生じるので抗菌薬アモキシシリンの予防投与がなされます。非アルコール性脂肪肝炎(MASH、旧NASH):メタと関連して非飲酒者に生じる炎症・線維化を伴う脂肪肝)では肝障害を悪化させます。妊娠中はホルモンバランスが乱れて歯周病にかかりやすく、菌は胎盤を通して胎児に感染して早産・低体重児出産を起こす可能性があります。TNF- α はインスリンの働きを阻害して糖尿病を悪化させるので、歯周病を治療すると糖尿病が改善するケースもよく見られます。誤嚥性肺炎は、嚥下機能の低下した高齢者で、胃の逆流物や口腔内細菌が気道に入って生じます。夜寝ていて気づかないうちに唾液と一緒に細菌を誤嚥する危険性があるので、寝る前の丁寧な口腔ケアが大切です。

歯周病のリスク因子

最大のリスク因子は喫煙で、過度のストレス、不規則な食生活も、口腔内の免疫力を低下させて歯周病を起きやすくします。また、糖尿病、肥満、メタリック症候群、関節リウマチ、閉経後(エストロゲン減少)も、歯周病のリスク因子です。

毎日こまめに、歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、洗口液を使用して、プラーク(歯垢)・歯石の除去に努めましょう!



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00~17:00(要予約)

担当: 中嶋